



図-3 2004年12月1日23:30に発生した地震と地震波形のある観測点位置

赤い星印が震央位置を表す。

震源の位置は、東経135.81、北緯35.04、深さ12.63km、Mj4.0 (気象庁)

震源解は11:158/52:43/112:65、Mo=1.04E+15Nm、D=14km、Mw=4.0 (F-NET)

なお、青三角はこの地震の観測記録のある京都府震度計ネットワークの観測点、赤丸は防災科研による地震観測点、赤四角は京大防災研による地震観測点を示す。

右の波形は上図の各観測点における観測波形と差分法による計算波形（いずれも速度）を示す。観測波形には0.1~1.0Hzのバンドパスフィルターを適用している。

堆積層の中心周期を0.5secとしてgravesのQによりS波速度(m/s)の1/5として与えた。

また、基盤岩の物性は

深さ3kmまでをVp=5400(m/s)、Vs=3000(m/s)、 $\rho=2.7(g/cm^3)$ 、Q=250

深さ3km以深をVp=6000(m/s)、Vs=3400(m/s)、 $\rho=2.8(g/cm^3)$ 、Q=350

とした。

なお、和東、笠置、南山城はモデル化した領域の外側にあるため基盤上の観測点としている。

